

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 4 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200288		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター広島川内		
所在地	広島市安佐南区川内5丁目16番3号 (電話) 082-831-3631		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200288-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	新型コロナの影響により、広島県「特例措置」を適用。 訪問調査は、令和 3 年 4 月 15 日に実施。

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者志向・ニーズを大切に、ご入居様が、その人らしくいつまでも穏やかに過ごしていただけるホームを目指している。
訪問看護と連携をとりながら日常的な健康管理を行い緊急時や夜間は協力医療機関と24時間オンコールで医療連携体制をとり利用様が適切な医療が受けられるよう連携を図っている。
また、地域住民との交流を深める為にイベントや保育園交流会等地域の方々と一緒にイベントを楽しみ地域に密着したグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ニチイケアセンター広島川内は国道に近く、周辺に大型ショッピングセンター、商業施設、せせらぎ公園があり利便性の良い環境に位置している。利用者が穏やかな毎日を過ごされるよう、一人ひとりに合った生活リハビリで、役割作りや、関係作りを重視し、利用者主体で行われる行事が出来るよう、職員は誘いかけ、促し、見守り、笑顔で暮らせるよう取り組まれている。協力医、医療機関は充実しており訪問看護師と連携を図り、日頃の健康管理、急変時、24時間協力体制が整えられ安心して過ごされている。地域住民との交流で保育園児、ボランティアの方の訪問があり、地域の行事に参加し、地域の方と触れ合いをとおして楽しまれている。今はコロナウイルス感染症予防の為、中止となっている。

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念「一 가족、人に優しく、自分に厳しく」ユニットの理念を各ユニットに掲示。職員にも理念の理解を徹底している。	朝礼時、社是を唱和する事で共有している。ケアを基にユニット会議、ホーム会議で振り返り実践に繋げている。理念は玄関、事務所の見える場所に掲示し、見る事で初心に戻る機会になり、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご近所様にはお会いした時の挨拶等は心がけている。買い物等も近隣で行い、秋祭り、デイのイベント等、機会があれば交流の場に出かけている。	日々の散歩、近所での買い物で地域の方と挨拶を交わしている。保育園児とのイベント、ボランティアの方の訪問、秋祭りに子供神輿が来て喜ばれ、地域の方と交流していたが、今は新型コロナウイルス感染症予防の為、中止になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症に関してのご相談等があれば相談をお受けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様、民生員、地域包括支援センターの職員様等のご意見を聞き、改善に向けて取り組んでいる。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、広島市に確認を行い開催を中止している。	2ヶ月に1回、利用者、家族、ニチ学館広島支店課長、管理者、職員で運営推進会議が開催している。行事報告、事故報告、職員移動報告、研修報告、次回活動報告をされ参加者からの提案、助言を受け運営に反映している。今は新型コロナウイルス感染症予防の為、開催を中止にしている。	新型コロナウイルス感染症が終息し、運営推進会議が再開された際には、地域包括支援センターの職員が毎回出席される事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営上不安な点等が出てきたら、市介護保険課事業者指導係に問い合わせを行っている。	市役所介護保険課に各種の手続き、確認事項で分からない事があれば電話で訪ねたり、出向いて問い合わせしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は、夜間以外施錠はしていない。身体拘束に関しては、ご入居者の緊急やむを得ないなどの状態がある場合はご家族様に説明、同意を得ている。ただし、検討会を定期的に行い解除できるように努めている。該当ない場合も身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束廃止への取り組みを行っている。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、事例を挙げて参加者からの意見を出し合い検討している。身体拘束はしていないが、職員一人ひとりが抑制や拘束の無いケアについて理解し、身体拘束廃止へ取り組んでいる。スピーチロックについて、気になる言動があれば、職員同士で注意したり、ユニットリーダーや管理者が指導している。玄関の施錠はしておらず、利用者が外に出たい時は、職員と一緒に外へ出て気分転換を図る等、閉塞感を持たない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホーム会議内での勉強会、社内での虐待防止キャンペーンの開催、ポスターの掲示を行い、意識を高めるようにしている。		

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	スタッフの周知徹底に取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時は説明の場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設けたりその都度、管理者、職員に対して表せる機会を作るように配慮している。また、年1回顧客満足度調査を行っている。	今は新型コロナウイルス感染症予防で家族の面会が出来ない為、家族に毎月「ほほえみ通信」を送り、利用者の様子、行事等お知らせし、家族からの要望や意見は電話で聞き改善している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、職員に対して表せる機会を作るように配慮している。ホーム会議の開催を利用している。	フロア会議や業務中等常に管理者と職員は、コミュニケーションをとり、意見交換を行い、職員の提案、意見の反映が出来るように取り組んでいる。シフトの希望等柔軟に対応し、働きやすい職場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内で体と心の健康作りとして相談、カウンセリングを行える相談窓口を設けている。また、キャリアアップ制度や勤続年数手当等で、やりがいや向上心が持てる様に会社として取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修については広く情報提供をしている。新卒採用者にはカリキュラムに沿って育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括いきいきネットに参加して、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に面談等の調査にて実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談等の調査にて実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン等に入れ実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の意向、立場で考え、介護を行うように努めている。そばに寄り添い会話やスキンシップを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事等の参加を促したり、面会時や必要に応じ、近況報告をさせていただきながら、本人の事を考える場を設けている。本年度はコロナウイルス感染症対策の為、電話での報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	従来面会は積極的に促しているがコロナウイルス感染症予防対策の為中止しており、現在はタブレットによるオンライン面会を主にこなしている。また、感染対策を入居者様としてご家族にも協力を頂き、徹底した上で対面面会も実施した。今まで使用してきたなじみの品(家具、写真、作品)を持ってきていただくなど、居心地の良い環境作りにも努めている。	家族、知人の面会、買い物、法事、結婚式と外出していたが、新型コロナウイルス感染症予防で、面会、外出はできない為、タブレット端末を導入し、オンライン面会を行っている。家族、友人と会えて顔が見え、会話ができる事が利用者にも喜ばれ、大切な方との繋がりが途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立せず、仲良かかわりが生まれる機会、工夫をする。(共同作業)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も出来る限りの助言、相談に努めている。		

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を優先しつつ、困難な場合は(転倒の危険性が強いとき等)ご家族と相談し安全な対策を図っている。	日常生活の利用者との関わりの中で、ニーズを引き出しユニット会議等で情報を共有し、気付きを話し合い利用者の思いを大切にしている。困難な場合は表情、仕草、家族の関わりの中で判断したり、職員間で情報を共有し、意向を汲み取り、常に再確認し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に面談調査や定期的な調査またはご家族様に聞き取りを行って、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子観察、健康チェック、記録等により職員間の連携に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを行い、問題提起に努めている。	日々の介護記録を基に、6ヶ月毎のケアプランを作成している。利用者、家族のニーズを徴収し職員間のカンファレンスの意見、アイデアを入れ、医療関係者の意見を聞き作成し、変化があった場合は即見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、管理日誌、受診記録等で情報を共有し、介護計画の見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じ、主治医やご家族、職員等で話し合い現状に則した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	定期的に保育園との交流はコロナウイルス感染症の為、終息後まで延期になっている。消防署協力の下、定期的な防火訓練を実施している。(本年度は、立会いなし)		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前必ず、家族等の希望とかかりつけ医の確認、提携医の説明をしている。緊急時にも提携医から連絡、指示を受けられる関係である。	入居前のかかりつけ医で受診出来るようにしている。月に2回の主治医による定期往診で受診をし、状態変化や緊急時には指示を受け、24時間医療を受ける事ができ、安心した医療連携が出来ている。日々の健康管理は訪問看護師と連携し、良好な関係を築いている。歯科医は週1回の往診で受診している。月に一回皮膚科往診もあり受診ができるよう支援している。	

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時に提携の看護職員(隔週)へ入居者様の近況報告、または定期的に訪問看護ステーションの看護職員(週/1回)へ近況報告を行っている。必要に応じて夜間帯・緊急時に訪問看護職員による必要な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先の担当者にサマリー等情報を提供し、円滑に入院治療が出来る様に支援している。入院中も連絡をとったり面会などで状態の把握をし、退院時には退院時カンファで状態の確認・情報の収集を行い、退院後のホームでの生活が円滑に送れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様の希望を聞き、ホームの現状を踏まえ提携医と訪問看護との連携を密にし、ホームとしてできる限りの対応をする方針ではある。重度化、終末期の状況、変化によって、ご家族、提携医、訪問看護と今後の方針を話し合い決めるようにしている。	入居契約時において重度化した場合や終末期に家族、利用者が望まれている事を確認し、事業所としてできる事、できない事を説明している。重度化された場合その都度、家族、医師、訪問看護師と話し合い、希望されれば終末期まで対応し看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに沿って研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている。	職員には広域避難場所の周知、各個人の防災グッズの周知徹底している。避難訓練は年2回定期的に行っている。非常食等を常時、備えている。	年2回の避難訓練を行ない職員が適切に災害に対応できるよう取り組んでいる。利用者も参加して、火災報知器、初期消火、避難誘導を行なっている。非常食も備蓄している。	避難訓練を開催する時に、事前に近所の方に避難訓練を行う事を連絡して、当日参加頂く事を期待します。又、運営推進会議開催時に、避難訓練を行い出席者の家族等に参加頂く事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応について気になることがあれば、管理者により注意を促したり、ホーム会議等で勉強会を行ったりしている。個人情報取り扱いに関しても徹底している。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに関する事業所内の研修を行い、人格、プライバシーに配慮した声掛け、トイレ、入浴の際の配慮をしている。利用者への不適切な対応があれば、職員同士で注意し合い、管理者も指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お客様に合わせて、言葉かけや働きかけを工夫している。選択肢を提供しご本人様が選択できるような対応もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常日頃、お客様のペースに合わせてるように指導している。		

ニチケアセンター 広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみ、おしゃれに関してはできる限りの配慮、支援している。理容・美容に関しては訪問美容を利用している。毛染め、顔そり、カット、パーマの対応は可能である。コロナウイルス感染症の為、換気や消毒に心がけ衛生面に配慮し玄関先や踊場で行っていたが現在は中止している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の意向を聞き、メニュー等に取り入れるように努めている。お膳を並べたり、お皿を拭いたり、個々のできる範囲で職員と一緒に頑張って頂いている。	食事は3食手作りで献立は利用者の好みを参考に、配膳や片付け等出来る方は一緒に行っている。年間の行事食も多く楽しみな食事になるよう作り、時には出前のお寿司、お好み焼き、おやつ作りではタコ焼き、ホットケーキ、菜園で採れたさつま芋でスイートポテト等作っている。状況によりミキサー食、刻み食、トロミ食で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	介護記録により日々の管理は行っている。食事量や水分量が少ないなどは、その都度、提携医に相談、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前に口腔体操をしている。毎食後に口腔ケアを促し介助している。又、訪問歯科を利用して定期的な検診等も行っている。義歯の方は夜間ポリドント等の洗浄剤にて洗浄している。また、提携医から職員への指導及び研修を定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介護記録を活用し、排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄を心掛けてケアしている。	介護記録で排泄パターンを把握し、全介助の方もトイレでの排泄を支援している。医師の指示で薬、ヨーグルトで排便コントロールを行い、トイレで自然に排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通の良くなるよう献立の工夫や飲み物等の工夫をしている。また、散歩等で体を動かしている。(コロナ禍の現在はホーム内で運動をしていただいている)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時は利用者様の意向を確認した上で行なっている。	入浴は利用者の意向や体調に合わせて週2回を目途に楽しまれて、個々に応じた清拭、足浴、シャワー浴で対応している。入浴拒否の方も曜日、職員を変えて気分の良い時に、入られるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様個人のペースに合わせて支援するように努めている。冬場は湿度にも留意し、加湿を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報、薬の目的・副作用・用法・用途についていつでも確認する事ができる状態にしている。薬が変わった時には症状の変化の確認に努めている。		

ニチケアセンター 広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴、趣味、性格等を活かした役割、楽しみごとを提供し、支援をして行く事に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に応じて散歩に出掛けている。散歩できない利用者は庭・バルコニーにて日光浴等行っている。コロナウイルス感染症のため最小限の外出(通院介助等)の支援を行なっている。	近隣のお店やコンビニで買い物をしたり、近くのせせらぎ公園で散歩したり、花見をしたり四季を感じながら楽しんでいたが、新型コロナウイルス感染症予防で外出ができなくなり、近くを散歩したり、ウッドデッキで日光浴をしたり、菜園の野菜や花を見て楽しんだり気分転換をしている。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、外出を控えています。新型コロナウイルス感染が終息したら、従来の外出を実施して頂く事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこづかい金としてホームでお預かりしているが、買い物時はお金をご自身に持って頂く等の支援をしている。レジにて精算できるかたにははしていただいている。(見守りのもと)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気になるよう心がけている。又、季節の行事に合わせて、飾り物をする工夫をしている。	リビングは花や利用者と一緒に作られた季節行事の作品が飾られ、四季が感じられ、廊下、階段の写真の展示は温かみのある事業所の光景が見える。湿度、温度に気を配り適度な換気が行われて、利用者は心地よい共同空間でゆっくりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングと廊下にソファを置いて工夫している。時には和室で食事をする事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前使っておられた家具等持ってきて頂くよう促したり、作品や写真等を持ってきて頂いて、ご本人様の居場所であるという意識を持って頂くよう工夫している。	居室には家庭で使われていた馴染みのテーブル、テレビ、タンス、椅子、家族写真、本、ぬいぐるみ、寝具、アレンジメントの花等好みの物が持ち込まれ、利用者が安全に暮らせるように整理した居室で、快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	認知症の方の対応をホーム会議等を利用して勉強し、混乱や失敗が起こらないよう、未然に気づき、対応するようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

ニチイケアセンター広島川内

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター 広島川内

作成日 令和 3 年 4 月 16 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練時、地域の方の参加者がいない	地域の方の参加	訓練時の協力を依頼する	6ヶ月
2	49	外出がなかなか出来ない	散歩の実施	コロナウイルス感染症対策で外出は出来ないが終息後には出来るような体制作りをする	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。